

総評尼崎地方評議会関係資料概要

- 1: 文書群番号 085008
- 2: 文書群名 総評尼崎地方評議会関係資料
- 3: 出所 総評尼崎地方評議会
- 4: 家業・役職等 -
- 5: 地名 尼崎市
- 6: 行政区分 尼崎市
- 7: 歴史
昭和25年（1950）7月、労働運動のナショナルセンターとして日本労働組合総評議会が結成された。当時の尼崎では尼崎地区全労働組合協議会（尼全労協）、総同盟尼崎地方協議会（尼地協）、尼崎労働組合連合協議会（尼労連）が分立して複雑な様相を呈していた。尼全労協は産別尼崎地区会議を継承するとともに中央産別会議加盟以外の組合も結集し、幅広い地域共闘機関として活動していたが、レッドパージを通じて組織が弱体化しつつあった。これと中央での総評結成とが相まって、尼崎における労働戦線統一の機運が高まった。昭和26年11月、尼全労協によって呼びかけられた尼崎地区全労働組合懇談会（労懇）には総同盟系・中立系組合も参加し、総評の運動方針の下で運動を統一することの必要性が強調された。こうして27年10月16日、総評尼崎地方評議会（尼地評）が結成されるに至った。
尼地評は兵庫県総評に先立つ、県下初の総評地方組織となった。尼地評には全金属尼鋼など9分会（旧尼全労系）、塩野義労組など16組合、オブザーバーとして23組合が参加した。尼地評は大同鋼板争議、尼鋼争議等を支援し、革新市政の基盤ともなる等、尼崎の社会・労働運動の中心となった。平成5（1993）年9月、連合尼崎の発足に伴い解散。
- 8: 伝来 昭和60年（1985）8月15日、横山澄男氏より寄贈の申し出があり、同年12月に受け入れた。平成14年（2002）8月に整理、目録作成を完了。
- 9: 史料入手先 横山澄男氏
- 10: 点数 19点（目録件数19件）
- 11: 年代 昭和27年（1952）～昭和35年（1960）
- 12: 構造と内容 本文書群を構成するのは昭和27年（1952）から60年までの尼地評の活動に関する史料であり、内容から以下の3グループに分類できる。
(1) 1950年代の尼地評大会議案書や規約等。昭和27年10月16日の結成大会に始まる、初期尼地評の活動を知る上での基本史料である。(2) 尼地評が取り組んだ社会運動、政治運動に関する史料(3) 労働者映画サークル運動に関する史料。これらは尼崎の戦後史における尼地評の位置を、多様な社会運動団体との関係から考察する上で意義のある史料である。
- 13: 関連史料 -
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 島田克彦